

# 道徳科学習指導案

## 主題名「あいさつやひとことがあると」〔学指要領：B 礼儀〕

第2学年

### I 主題設定の理由

#### 1 価値観

本主題は、学習指導要領の内容項目B「気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。」に基づくものである。これは、人との関わりにおける習慣の形成に関するものであり、相互の心を明るくし、人と人との結びつきをより深いものにするための適切な礼儀正しい行為に関する内容項目である。

礼儀は人間関係を広げ、豊かにし、私たち人間が円滑な社会生活を送るために必要なものである。なぜなら、真心がこもった態度や時と場をわきまえた態度など礼節をわきまえた行為が、よりよい人間関係を形成することにつながるからである。

しかしこの時期の児童は、決まった場面では礼儀正しく振る舞うことができるが、いつでも誰にでもできているというわけではないことが多い。

そこで、礼儀正しくする習慣を身に付けるためには、時と場合に応じた挨拶や言葉遣い、作法などがあることに気付き、それを実践することで自分も相手も気持ちよ実感できることが大切となってくる。

また、今後、この内容項目は第3学年及び第4学年においては、「礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること」へと発展する。

#### 2 教材観 教材名「さて、どうかな」（出典：日本文教出版「生きる力2」）

本教材は、以下の2つの場面で構成されている。

- 1, 【学校での場面】朝、学校の廊下で先生に会った主人公はしっかり挨拶するが、友だちのいる教室には黙って入っていく。
- 2, 【遠足での場面】「落とし物を探しに戻ったので、集合時間に遅れました。」と先生に報告した主人公たちが黙ってお弁当を食べ始めると、待っていていたみんなが見ていた。それぞれの場面の最後で、「さて、どうかな。」と問いかける内容である。

本教材は、児童の生活に沿った教材であり、このような場面を経験した、もしくは簡単に想像しやすい話を客観的に捉えて考えやすい話になっている。それだけに児童が登場人物の立場になって考えやすく、興味をもって学習に取り組むことができる教材である。

そして、登場人物の行動を批判的な視線で捉えて問題意識をもたせ、自分が同じ立場ならどうするかを体験的な学習を通して考えることで、時と場合に応じた挨拶や言葉遣い、作法などがあることに気付くことのできる適切な教材となっている。

II 本時の学習

1 ねらい 役割演技をして、相手を思いやる言葉や態度について考える活動を通して、挨拶やごめんなさいといった一言が、みんなをいい気持ちにしたり仲をよくしたりすることに気付き、明るく礼儀正しく接しようとする心情を育てる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 <b>主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問)</b> 予想される児童の意識 [S]	○指導上の留意点
<p><b>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</b></p> <p>S : 挨拶をすると気持ちがいい。 S : 挨拶をしないと、無視をしたみたいになっちゃう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;めあて&gt; なぜ、あいさつがひつようなのかな。</p> </div>	<p>○ふだんの生活での様子を思い浮かべ、挨拶をしたときの気持ちを想起できるよう、「挨拶をしたときと、しないときでは何が違うのか」を問いかける。</p>
<p><b>2 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(25分)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎挨拶やごめんなさいなどの一言を言うと、お互いにどんな気持ちになるでしょう。</p> <p>S : うれしくなって、みんな笑顔になる。 S : ふわふわ言葉なので、いい気持ちになる。 S : 仲良しの気持ちが大きくなる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇本当に挨拶やごめんなさいの一言だけで、みんないい気持ちになれるのでしょうか。</p> <p>S : いい気持ちになるには、優しく言うといいかもしれないな。 S : 真面目に言うことも大切だと思うな。 S : 相手の気持ちを考えることが必要だと思うよ。</p> </div> <p><b>3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)</b></p> <p>S : 挨拶すると、お互いが気持ちよくなるから。 S : 相手のことを考えた挨拶は、みんなを仲良くするから。</p>	<p>○場面の状況をはっきりさせて考えることができるよう、教材を [学校で] と [遠足で] の2つの場面に分けて挿絵を提示する。【★提示】</p> <p>○挨拶や相手のことを思いやる言葉、態度について自分ごととして考えることができるよう、2つの場面での役割演技を通して気持ちや行動の理由を問いかける。</p> <p>○多面的・多角的に考えることができるよう、挨拶をしない人の気持ちやされた人の気持ち、遠足で私たちが待っていた人の気持ちも問いかける。</p> <p>○自分の考えを整理して考えることができるよう、ワークシートに自分の考えを書くよう促す。</p> <p>○礼儀に対する多様な考えを知り、自己の考えを広げられるように、意図的な指名をして、出てきた考えを整理しながら板書する。</p> <p>○現象面のみでなく心理面につなげることができるよう、「そのようにすれば、どんなよいことがあるのか。」「言葉だけでなく、どんな態度が必要なのか。」を問い返す。</p> <p>○本時の学習をもとに、自分の考えをより確かなものにできるように、なぜ挨拶や相手のことを思いやる言葉や態度が必要なのかを考えるように促す。</p>
<p><b>4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;振り返り&gt; S : 今まで、大きな声で挨拶するのがいい挨拶だと思っていたけど、挨拶するときには相手のことを考えることが大切だとわかった。これからは相手のことを考えて挨拶したい。</p> </div>	<p>○気持ちのよい挨拶や思いやりのある一言を心がけようとする思いを高められるように、これからの生活で生かしていきたいことをワークシートに記述するよう促す。</p>

◆評価の視点

- ・ワークシートの記述や発言から、「挨拶したり思いやりのある一言を言ったりすることの意義を、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・ワークシートの記述や発言から、「気持ちのよい挨拶や思いやりのある一言を大切にすることについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。